

4.5.2 導・送・配水管の被害件数

表 4.10 に口径・管種・被害形態別の被害件数を示す。

また、表 4.10 には被害件数を管種毎の管路延長で除した被害率を示す。

- ① 合計 73 件の被害が発生し、被害率は平均で 0.13 件/km であった。
- ② ダクタイル鉄管の被害件数は 12 件（付属設備 5 件を含む）であり、被害率は 0.04 件/km であった。主な被害形態は一般継手部での漏水や付属設備の被害であった。
- ③ 铸铁管の被害件数は 2 件であり、被害率は 0.17 件/km であった。被害形態はいずれも継手漏水であった。

表 4.10 口径・管種・被害形態別被害件数（七尾市）

管種	DIP	CIP	ACP	SP	PE	VP	その他	不明	計	管路延長 (km)	被害率 (件/km)
口径	50mm以下			8		16		1	25	130.4	0.19
	75mm	2		7	2	5			16	96.9	0.17
	100mm	3	2	10	1		3		19	114.9	0.17
	125～ 150mm	4		1	1		2		8	108.4	0.07
	200mm	1		2					3	42.9	0.07
	250mm								0	16.9	0.00
	300mm	1							1	35.9	0.03
	350mm								0	2.8	0.00
	400mm	1							1	12.9	0.08
	450mm以上								0	3.4	0.00
被害形態	継手抜け	1		5	1	15		1	23		
	継手漏水	6	2	5	11	2			26		
	管体破損			10		6			16		
	付属設備	5				1			6		
	その他					2			2		
計	12 (一般継手)	2	20	12	0	26	0	1	73	565.4	0.13
管路延長 (km)	280.8	11.5	89.8	6.8	3.9	172.4	0.3		565.4		
被害率 (件/km)	0.04	0.17	0.22	1.78	0.00	0.15	0.00		0.13		

七尾市上下水道課の資料による

- (注) 1. 鋼管の被害はすべてネジ継手部の被害であった。
2. 腐食性の強い珪藻土地盤に、ポリエチレンスリーブを施さずに埋設されていたダクタイル鉄管の一般継手において、ボルトが腐食していた事例もあった。
 今後はポリエチレンスリーブ等の防食対策を施すことが望ましい。
3. 塩ビ管の被害はT S継手での管体破損・継手抜け、R R継手での継手抜け、漏水であった。
4. ポリエチレン管の種類は不明であった。

- ④ 石綿管の被害は 20 件であり，被害率は 0.22 件/km であった。被害形態は継手抜け，継手漏水，管体破損であった。
- ⑤ 鋼管の被害は 12 件であり，被害率は 1.78 件/km であった。被害形態は継手の抜け，継手漏水であり，いずれも経年化したネジ継手部の被害であった。
- ⑥ 硬質塩化ビニル管の被害は 26 件であり，被害率は 0.15 件/km であった。被害形態は継手の抜けが最も多く，次いで管体破損であった。

図 4.21 に口径別の被害率を示す。呼び径 50 以下では被害率が 0.19 件/km と高い。

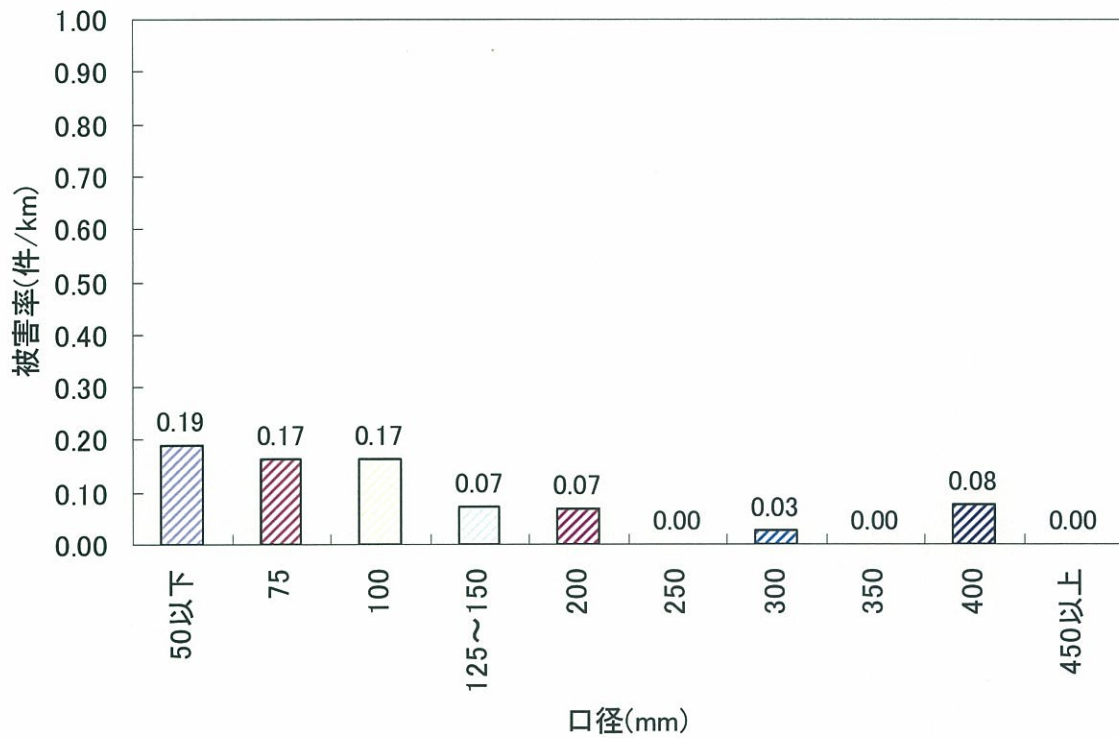


図 4.21 口径別被害率（七尾市）